享保期幕府武芸奨励について

文化科学研究科・国際日本研究専攻　横山　輝樹

享保期幕府武芸奨励について

文化科学研究科・国際日本研究専攻　横山　輝樹

私の研究は日本近世に於いて武芸（武術、武道）とは何であったのかを明らかにし、ひいては「武」なるものの近世的位置付けを試みようとするものである。近世史学に於いて、思想的な「武」はともかくとして、武芸という要素は殆ど顧みられる事のない要素であった。そうした背景には、およそ次の様な意識があると考えられる。太平の近世にあって、「武」の技術である武芸が必要となる状況はあったのか、そもそも近世武芸なるものは実戦の役に立つ代物であったのか（結局は西洋軍事技術に取って代わられたではないか）、つまりは分析の必要性が分からない。この様な意見は実際に私自身もしばしば耳にするものである。無論、それはそれで一つの考え方としては評価しようが、この様な反論も可能であろう。

第一点、太平の近世にあって武芸が必要となる状況はあったのかという点について。日常的にそれを使う機会が少なかったであろう事は確かである。問題は、そうした状況下で、敢えて武芸を習う者がいたという事実、為政者側が度々武芸奨励を実施していたという事実である。つまりは日常的に必要か不必要かという次元を超えたところに近世武芸は存在し、その意義を認められていたということになろう。

第二点、近世武芸なるものは実戦の役に立つ代物であったのかという点について。そもそも「実戦」というイメージについて、近世人と現在の我々との間でズレがあるのではないかという疑問がある。例えば本研究が扱う享保年間（1716 ～ 1735）の幕臣にとって、慶長20年（1615）の大坂夏の陣は約100年前の出来事、寛永14年～ 15年（1637 ～ 38）の島原の乱であっても約80年前の出来事であり、それ以降戦らしい戦は経験していない。とすると、「実戦に役立つ」という点を考察するにも慎重な姿勢が必要となる。又、前述の如く、「武」を発揮する機会の少ない当時の社会に於いて、「実戦に役立つ」という事がどれ程の意味を持ったのか。武芸には全く違う要素が求められたのかも知れないし、或いはそれこそが近世的な「実戦に役立つ」という事なのかも知れない。

総じて、「使う必要の無い」状況下で、「役に立たないであろうに学ばれた」武芸の実態は分からない点が多々ある。これを明らかにする事は、200年以上の長きにわたって平和が保たれた近世的「武」が如何なるものであったのかを考える一助となり得るのである。それには可能な限り歴史的事実を積み重ねた上で主観を廃した近世武芸像を構築する必要があるが、問題は、その為の研究蓄積が不足しているという現状である。とりわけ、近世武芸を取り巻く当時の社会状況についての研究は絶対的に不足しているといわざるを得ない。この様な歴史学に於ける研究動向の一方で、武道史研究に於いては個々の武芸（武芸流派）を分析するものが殆どであり、武芸を取り巻く近世社会の諸様相まで意識は向けられていない。当然の話ではあるが、近世武芸も当時の社会の中に存在したのであって、社会から隔絶されたものとして存在したのではない。武芸と社会との関わりは分析されてしかるべき課題である。又、例えば剣術史研究ならば剣術のみを対象とする様な姿勢が顕著であり、同時代の他の武芸、槍術や弓術、馬術と比べて剣術はどうであったのかという様な、近世武芸全体に於ける個々の武芸の客観的な位置づけも進んでいない。

武芸と社会との関わりの一形態である、武芸と政治との関わりも、昨今では宇田川武久氏や布施賢治氏らによる研究はあるものの、未だ不充分である。太平の世に於いて、為政者として如何に武士の質を

高めていくか、一定の水準を保つかは重要な課題であった。ひとつの解決策としては学問奨励がある。「治者」の一員としての心構えを身に付けさせるには有効な手段であろう。その一方に、質実剛健たる心身を形成すべきものとしての武芸奨励がある。例えば、幕府三大改革（享保・寛政・天保）では、いずれも武士の緩んだ気風を鍛え直し、「士風刷新」を図る為に武芸奨励が実施されたとされる。それでは、具体的にどの様な施策が採られたのか。寛政改革や天保改革に於ける武芸奨励の実態に関しては幾つかの研究が存在しているものの、これら二つの改革が手本とした享保改革のそれは残念ながら見当たらない。享保改革に於いて如何なる武芸奨励策が実施されたのか、この点を明らかにする事は、後の改革に於ける武芸奨励の評価を更に鮮明にする事になろうし、当面の差し迫った対外問題が無かった状況下での武芸奨励が如何なるものであったのか、即ち近世的「武」の典型的な姿も明らかに出来ると考えられるのである。

享保改革に於いて為された主な武芸奨励策を列挙すると以下の通りである。

・武芸上覧（現役の武官－旗本クラス－に対して）
・武芸吟味（旗本の子弟に課された登用試験）
・武芸見分（現役の武官－御家人クラス－に対して）
・狩猟の復活
・射礼の研究・復活
・西洋式・唐式馬術の研究

当面はこれらの実態の解明に取り組むが、これらの分析結果は個別研究に留まるものではなく、先に述べた武芸を取り巻く社会状況の一端を把握すると同時に、武芸奨励レベルに於いて個々の武芸が与えられた位置づけの把握にも繋がる（享保期の武芸奨励ではそれぞれの武芸の扱い方に温度差がある）。

今回の事業で調査した国立公文書館にはこうした作業に不可欠な史料が多く蓄えられており、刊行史料では限界のあった諸々の諸事項について更なる分析が進むものと確信している。具体的にどの様な史料を収拾したかを以下に述べ、本稿のまとめとしたい。

１、「御番士代々記」について

この史料は将軍直属の旗本で編成された部隊である小姓組、書院番、大番、新番、小十人組等に所属した旗本の名簿、及びその経歴をまとめたものであり、文政３年（1820）に完成した。刊行されている「寛政重修諸家譜」や「柳営補任」等と比べ、番方（武官）に関する記述に特化されており、武芸上覧等に関して武官の位置付けを試みようとしている本研究には大きな役割を果たす事になる。

２、「享保遠御成記」等の狩猟関係の史料について

これらは吉宗がその治世下で度々実施した狩猟（鷹狩等）に関して記述されている。近世に於いて狩猟は単なる娯楽ではなく、軍事調練の意味合いを含んでおり、本研究の重要な要素である。刊行史料である「徳川実紀」や「柳営日次記」（雄松堂書店より写真版がマイクロフィルムで出版）の典拠となった史料も含まれており、無論記述内容はそれらに比べ詳しい。

３、「柳営日録」「柳営録」等の記録類

幕府の諸役所で日々記された公用の日記類を元に作成された編纂記録である。前掲の「柳営日次記」もその一つであるが、記述内容の詳しさに差があり、今回の調査でもこれまで「柳営日次記」の記述か

らは不明であった点を明らかにする事が出来た。例えば、享保４年（1719）の５月から６月にかけて下級武官を対象に実施された炮術見分について、「徳川実紀」では優秀者への褒美に関する記述が僅かに見出せるのみであり、「柳営日次記」では実施の事実は分かるもののそれぞれの日にどの部隊が対象となったのかは不明である。これに対し、「柳営日録」では実施の事実と対象となった部隊の組名までが記載されており、戦時に於いて鉄炮部隊となるほとんどの組が見分実施期間中に対象となっている事が明らかになった（**付図参照**）。しかしながらこれらの史料の分量は膨大なものであり、未だ目を通せていない箇所が殆どである。今後も調査対象としていきたい史料群である。

付図「享保４年５～６月実施の砲術見分について」

月日	「柳営日録」	「柳営日次記」	「有徳院殿御実紀」（『徳川実紀』）
5/15	21日より炮術見分開始の通達	記述なし	記述なし
21	持筒組２組 組名の表記あり	持筒組２組 組名の表記あり	記述なし
22	持筒組２組 組名の表記あり	持筒組 組名は不明	記述なし
23	鉄炮百人組１組、先手鉄炮組１組 組名の表記あり	鉄炮百人組、先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
24	鉄炮百人組１組、先手鉄炮組１組 組名の表記あり	鉄炮百人組、先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
25	鉄炮百人組１組、先手鉄炮組１組 組名の表記あり	鉄炮百人組、先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
26	鉄炮百人組１組、先手鉄炮組１組 組名の表記あり	鉄炮百人組、先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
27	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
28	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
29	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
30	記述なし	記述なし	記述なし
6/1	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
2	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
3	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	先手鉄炮組 組名は不明	記述なし
4	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし
5	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし
6	先手鉄炮組２組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし
7	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	火消役鉄炮組 組名は不明	記述なし
8	鉄炮用方２組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし
9	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	火消役鉄炮組 組名は不明	記述なし
10	記述なし	記述なし	記述なし

11	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	火消役鉄炮組 組名は不明	記述なし
12	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	火消役鉄炮組 組名は不明	記述なし
13	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし
14	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし
15	火消役鉄炮組１組 組名の表記あり	砲術見分実施の事実のみ	記述なし